

第83回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2021年10月2日（土）19:30-21:00 ZOOM会議

2 参加者（敬称略・五十音順）

飯田和也、市川、岩田、小林、瀧上、田口、富樫、丹羽、根本、畠山、南島、宮嶋、矢島、横山（地理）井田（オブザーバー）阿部、木村

3 前回議事録の確認（承認済み）

4 中教審関連・理数系学会・学会等情勢報告

- ・GeoSciED IV2022 島根大会の知名度が低く、J p G Uを通じて小中高の教員への周知に協力をいただきたいとの要請が根本委員よりなされた。

5 教育検討委員会関連の報告事項

- ・今年度の地学オリンピック受付が開始され、順調な滑り出しであること、8月に行われた国際大会（オンライン）の結果について、瀧上委員から報告があった。また「地球をぶらり 2021」（オンライン 10/23 土）の案内がなされた。

6 協議

（1）次期パブリックセッションの内容検討

主コンビナー候補の岩田委員からセッション提案の背景、タイトル、スコープ案について説明があった。各委員から出された主な意見を下記に示した。

- ・今回の学習指導要領改訂の一番大きな変化は、「主体的な学習」等、教え方・学び方の変化であり、現場教員としては関心は大きいですが、それは日本理科教育学会や日本地学教育学会など教育系の学術学協会などで議論すべきものであり、J p G Uで扱うセッションとしては、教える内容について焦点を当てるべきである。
- ・小中学校の新教育課程の理科の教科書を見てみると、「自然災害」の内容等について、かなり変わっている。社会でも同様で、小中学校で扱われている社会の防災の内容は、かなり踏み込んだものになっている。
- ・地学と地理での内容の重複も気になる場所である。
- ・地学及び地理と社会の関わり観点で、教科書の防災、自然災害の内容に関して検討することは、意義のあることである。

上記の議論から、今回のセッションでは、新学習指導要領の新しい教科書で、何がどう変わったかを明らかにし、「防災」「自然災害」「用語」「地学・地理間など教科横断的」などの問題を考えることを目的とすることを確認した。

なお、タイトル、スコープについては、2週間程度で修正案をML上で議論し、講演時間の設定や講演者の人選については、1か月以内を目途に小委員会を開催し、改めて議論することを確認した。

(2) 新学習指導要領の教科書検討、その後の進捗状況の確認

鉱物科学会年会で発表した「中学校理科教科書における鉱物名の表記について」、宮嶋委員から概要の報告があった。

先行事例として火山学会の教科書検討での留意点、問題点等が横山委員からコメントがあった。また、教科書会社は検定での指摘・修正を恐れて、大胆な書き換えを好まない傾向があることを畠山委員が指摘した。

7 次回小委員会

1カ月後を目途に日程を調整することを確認した。なお、できれば11/2(火)セッション提案締切に間に合うよう、設定を配慮する。